

要件日誌
館長

明治三十七年一月



特別
14
1919
924



細
1327
152

14
1919
924

010 1900 48298

明治三十七年一月改
要件日誌

一月十一日

本日ヨリ開館ス

但シ八日ヨリ事務局ヲ開キ加藤塔中ニ
テ主ウ坪内氏ヲ購入、図書ヨリ開館
迄及上簿ノ手續ヲ終ル、澗院ニ供セン
トテ執務シ本日午前十漸ヤク完了シ
報ス

皇宮内省圖書部

館長「校用」ニ云々九七日「市」校「令」
去法

改本三郎氏「朝」ニ「書」購入「件」
照令「為」今朝館長「氏」訪問

十二

一 〇〇〇〇年一月一日と〇〇〇〇年一月一日との
和漢新編(四)古目録をカードに必要
な事項をわらわすの事(〇〇〇〇)を令す、在

と事務因ら「成」る「あ」る「と」出来「上」
イ「只」別「と」新「加」印「刷」目録「の」原「稿」
材料「を」充「つ」是「也」

一 〇〇〇〇年一月一日「報」の「指」裁「を」令す、
是「等」の「事」を「令」す

一 舊「版」油「を」し「終」る「と」洋「玉」鉄「板」の
内「許」を「必」ず「き」方「を」令す、
又「多」量「部」用「カ」ード「と」刷「版」を「備」
つ「け」る「カ」ード「と」一「改」る「事」を「令」す
充「つ」る「事」を「令」す

十三日 晴

- 正定書合本二十冊より二十冊其の書名を以て
 焼本本月抄 傍本あり也
- 寺報に福徳に賀流す」とを拾ふ
- 新刊書之移し元補をぬき、その書名
 勅撰状とあるものあり也
- 十月月系に十一月分閱覽月表あり
 湖邊をうりまのきこ方徳を名づく本抄
 への状と合す
- 在獨乙副島也、去る程日録の如し

書状を郵送す

十男 曇

一十一月中閱覽月表成り

貸出合計

人員 一五二二二

内 前と貸出 一五三八七

出外 一五〇

修外 八五

一日平均人員 五五七、九二

貸出回数合計

三〇九三八冊

平均 二一〇四九二

一 在外増多の望も、外務省を以て後
計書若干冊を送りし事あり

一 中西書局より山崎氏千雄の著書
「支那史」を送りし事あり

一 田原氏著「支那の歴史」を送りし事あり
貸出と流す

十考

一 廿二の十二月中閲覧月志集の

人数 一九九〇 一二一九九

平均 書人の五二五 六四二〇五

回数 二二六三一

平均貸出数 一二九一、一〇

十考 十九考

貸出回数に於ては、十考の倍あり

廿日

念言

一 素原くく 振上 染没し 寺か 未木 杖

を 道 換し 未く 夏く 後 杖 杖

一 伊 支に 臨的 換 中を 念し 生 意 下

満し 清 義 ね せ 偽 行の 千 杖
と 為 せし 杖

一 元 朝 如 史 七 冊 勝 亨 了 く 廻 す

本 有 言 的 部 換し 為 彼 杖 を 市
中 へ 差 出 せ 了

一月二十日

二月十日に至る

館長迎賓の爲熱海に往き不在此の
日記もと録す

二月十日

- 昨朝館長ゆゑを以て出勤す
- 館長不在中し事務、主たる左の
如し
- 佛國、論文の圖書送之し

古産の通知書と録す

- 事務用カード二千枚の取納
漢字の部し筆字を命じし
しとの前を扱ふし
二階、物付の新架出来す
- 在古の欠不削し
伊東橋の中を
一か所修繕す

一 紀元節 休館

十一日

紀元節 休館

十二日

一 和漢書と部と軍事と之一部門ヲ置キ
良シ、以テ部ヲ付ス
一 二書並之ヲ求ニテ、本年也、圖書購入全

款ヲ取調ヘシ、先交左ノ如キ結果ヲ得タリ

明治廿七年度(一月廿日現在)圖書購入調書

種類	部	冊数	金額
洋書		四七〇	一〇三二一一〇
和漢書		三四九	六七〇七七八
新聞雜誌		四六	一八六三二〇
計		八六五	一八八九二〇八

(参照) 外國雜誌及内國新書ハ一月分是冊トス

一 本三々心推考(圖書)件在書子

學ししるの傳系ありしあるは均等也、
多寡も亦便をあるも亦其を均す

十三

一 戦法も其末を上ること能くしるは
兵の義指を主とする者集する傳系も
と根絶するも亦あるは其を起し
て集す

一 均等なる一也を和き氏、
其のつき根絶ししは其の餘多を氏の

一 均等なる一也を和き氏、其の餘多を氏の

十四 休

十一

一 均等なる一也を和き氏、其の餘多を氏の

一 均等なる一也を和き氏、其の餘多を氏の

一 均等なる一也を和き氏、其の餘多を氏の

法華書之二部 國山集

皇清行解 正續

正法華金書

此子(和漢のしるし)金書

小説(蘭語の借字)

小川武彦托書

治天流(通鑑)高系(刷)

續治天流(通鑑)

史書(集)

大史

天年山類聚

興雅(書)

源氏物語

唐書(文) 荒干帳

大系(任)

十

一 時引續き古存南和漢書(家帳入)

唐書(若干)と二階(新案)物

一 内田銀花(若干)托書と二階(新案)

梅子衣之木屑路ちう之目録と完全
編云

- 一 伊東を暗面として扱ふ事と本音云
- 一 多岐の國の協作云云編云
- 一 車籠用和洋書追加カードを印門別
く函く世書並にふる事と衣印つめに膳
寄し目録一冊と此ふる事と石井の
命下す

一 阿部と木と松は寄託者し由洋書
と一冊目録と完全の上紙とて排列し

且つ澗鏡と竹とをきりぬぬと後編とを
うべき事と命下す

- 一 和洋書家し快入書と務とをよりて
果の字由の書案と宣文とをよりて
うりて石井とを教正部方を命下す

十七

一 飯本久勤

坂下氏新編國史し作る飯本也
と本語す

十

一 坂本武雄著の圖書の流通と結果の

総印数 八十一部

総冊数 百八十三冊

北代金

千七百七十八圓四角

馬友 五百六十八圓
二十五部

外に運賃旅費入三千八百五十二圓

石二つ割 押金

一 坂下、運賃付掛

一 寄託書に貼附の書籍用紙を自作印刷に托す

一 坂本三郎、金子馬次二氏に本校商標の
と為托す

会

一 大塚園と坂本丹林考 湖館式を為
行す、石野正の刊行

一 故文部大臣中川西代氏記念として洋書

と和洋書十数部を寄託す

一 外國の論文をこの園に輸入し、本
年分の論文をいんと以て打止とす

但し一月以前に引越したるものは
この引合状を提出する事

一 借入したる文書が直七しあるは
其自身も併一人と知事とあること
と併し暖炉と徴するものも併し
提出する事

念言

一 彼等中西各、生徒表干し書籍を
購ふ

会要

一 松山市に於て俳句見聞代價の送付
来り

一 前島男、夜急告を賜り

一 少佐名を録し、柱の留置し、
又之を流す

一 中一少佐名を録し、裸体画を
母列す

一 中一少佐名を録し、裸体画を
母列す

一 館中乃至各書局に出版し、表紙に「國史」を購求す

一 北國製書局に「國史」を請し、表紙の「國史」を改題し、その旨を各書局に告ぐ

合考

一 貸出用の式紙を印刷し、

一 杉倉垣より「國史」を毎年、寄附海防
瑞毛し、内表紙に「國史」を記し、その旨を各書局に告ぐ
状に接す

一 歴史大辭典に「國史」の項を設け、

一 史の佛國に「國史」を記し、その旨を各書局に告ぐ

一 口頭にて「國史」の旨を各書局に告ぐ

一 各書局に「國史」の旨を各書局に告ぐ

一 各書局に「國史」の旨を各書局に告ぐ

一年分り書き

一 揚井の又々ありありの日記に因りて
 一 軍心ありてある事を知る事
 一 ありおたしめ揚井や一とをある事
 一 遠原氏に付向者若干印蹟又
 一 一と出た事とある事
 一 又と手摺とある事

念九

日記

念九 晴

一 一歩の跋もたるとして出た辨取し
 一 一歩の跋もたるとして出た辨取し
 一 一歩の跋もたるとして出た辨取し

一 一歩の跋もたるとして出た辨取し
 一 一歩の跋もたるとして出た辨取し
 一 一歩の跋もたるとして出た辨取し

一 一歩の跋もたるとして出た辨取し
 一 一歩の跋もたるとして出た辨取し
 一 一歩の跋もたるとして出た辨取し

を今斗と名す

書

三月

一

一 録古司氏者：所及治方を以て
一字托書：然其心と書雜用系少千
故印刻集了

一 平福のそ被自今(二月)迄(五)月
十部之圖書被之書らむとて決
す所を^{圖書}所被多し然下こめ
也

一 二〇

一 ありては、治又こモ一レ一ジラウツドスト
ン後^{圖書}三^{圖書}ありてあり

一 此は花洋書目録コンニヤリ摺出来りて其
 之を浦河迄之指載せしむ又其書目録
 見をぬす
 一 京都方立中二ノ我長五木三ノ冬親し
 むす
 一 大塚邸へ送付し 四七日を七泊し
 ち
 一 本月しそ積りて 四日終りてしゆ也
 着圓と校書と方立改りし

一 早稲田女子二十一回校書者年々二部
 大関迄迄に付しそをしし 絶意謝
 絶せしむ
 一 和洋書事録カード二月廿九日迄を
 結果として海軍の函に封入する事
 其の書目録等中一ノ自録廿二月廿九
 日迄日しそを以て一ノ函封入する事
 事
 一 本校大蔵室の額縁出来りての額縁

四〇 快信

一 阿部隆中し松平一奇托方元波一急属
 明らしく考案強しを所し同様のカード
 油紙を二層半をしいたる也
 一 貴手考案在中し同様の油紙をしいめ
 其のカードを心くし目玉其代用紙
 停止中し其目カードを秋宮査察
 理す未了

一 本の松平一奇和洋書最らし能く洋
 書一冊を名見えし其の首飾四五枚

一 取次り波印を印りたるは計多し其を
 除きたるは総ありし餘中し其の不
 為り明けし進し不心得あり能く
 ちべき事

一 今迄存稿上り余体付目録騰字集了
 一 由新加島和洋書目録(昭和三十一年一月ヨ
 リ同三十七年二月廿九の二至三)事務用カ
 ードに就き騰字中し之度本の出来す
 在るは付目録印刷し原行に供せんと
 する也

吾 兩

一 此の如き事

二 之

一 此の如き事

三 之

一 運回法神 執事の中の大徳はるる像
高敷出来す(枚多合)と記念する
作(一)の(運回事)終上之を関
説意に揚ぐ

一 伊國の法文に佛法流布者幸の利

著す

一 松平國守の調り終る事あり
カードの儀を志し善相をせしむ

一 枚多不運成美 新法を以て記す
補者(一)の事あり

一 石の圓書(白)利産(石)の事あり
(綴)物矢空(絶合)と念(石)荒干(と)鉄
板(と)定(女)自(今)快(臨)く(と)除(く)事(了)に
決(す)

16 兩

- 板及関心考稿と併し作中の抄紙、
も我と扱ふ
- 絵化一人解備に決す
- 西語全書と抄紙忘回しゆり
編入し白多関説と併す
- 教科書五十冊教科と併しと後
件教科と交渉論

九名

- 佛蘭し抄り為國公日録の約廿箇出

来ミルく、指をとり又その巻を
扱えとす

- 西洋書評も扱ふとすを
用ひるの件
このころより

- 伊國の抄り為國公日録左の如し

五六五、七〇 抄り為國公日録 二二六二八

此の内早稲田代 一六〇二八

此の抄り為國公日録

カルヴラの國公日録を扱ふ一冊
あると手渡す所は此の如し
同し終

文部省に送る也

十日

一 京野方園と彼中ニ書ありたりし年飯
録のとを一覽せしむ

一 寺殿に攝録し至行に看せしむ

一 杉本氏寄託書及教左の如し

總數七万五十七部

二千一〇十冊

内

活字 三万八十九部 一千〇二十冊

漢文 三万六十八部 九万九千冊

一 二月中圖書月計左の如し

○ 洋書に部 部 冊

購入 一三八部 二五五冊

寄贈 一二部 一三三冊

計 一五〇部 二六八冊

○ 和漢書に部

購入 七一部 三三三冊

寄贈 一八八部 三三三冊

一言年号も、元倫記方十部二言宛
と云けは、さう段中、和、深田氏名義、
乙書の特、
野橋 我と云ふ

十二〇

十〇

一 坪山良歌を月迄十三段の二白今と云
終、唐入ん生、下、宿直と投、あせー
と云ふ
一 昔日用、象、印、創、出、果、す
一 前、し、年、油、香、帝、し、さ、し、
備、付、カ、ード、美、物、花、に、地、底、と、完
合、七、終、と、自、今、一、画、に、花、を、香、し、標
本、意、に、符、付、し、と云ふ
一 在地、滿、カ、ード、を、騰、寄、し、あ、一、冊、の

目録を乞はるるに必要ありし其の際言
と申す所なり

一 故所を轉るに流復存ししより白を
半紙ありし

一 文庫を掘りしし十名所をとりて
与る所ありし故所掘りの上迄
決す

一 日本に送るに又さるる事ありし故
印し

一 古く史料ありしに二冊を
採り

月をとりて流復し故所を掘りし
に採り

十九日

一 エンサイツロペディア二冊
又イリス社より
採りし

一 差出人不明の古書
を採りし其の故所
を掘りし

古中

念書

- 浮城に於ては、従来の美玉二印を是
に換入す
- 浮城に於ては、従来の美玉二印を是
に換入す
- 吉岡文志(函館毎日社)の日記を
整理す
- 松平氏家系を研究し、関係者を
調査す
- 吉岡文志(函館毎日社)の日記を
整理す

念書

- 松平氏家系を研究し、関係者を
調査す
- 吉岡文志(函館毎日社)の日記を
整理す
- 浮城に於ては、従来の美玉二印を是
に換入す
- 文庫保存に於ては、関係者を
調査す
- 浮城に於ては、従来の美玉二印を是
に換入す
- 吉岡文志(函館毎日社)の日記を
整理す

壬午二月迄追加目錄
のり
のり

一 丸を左し回し注す

meio mio

一 松平寄托書、天の符號を付す

会考

一 杉山金左氏、河田清吉宛てて、城を
来致す

一 板友化流士首書、貞克氏奉納

一 板本三郎、七く作、日池田、
七と流す

一 高平不持、科、其の請あり、
高平の居流す、日報、寄宛し、
を為す、流す、其の元、油、
を看す

一 上野、岡、流す、後、
交、正、分、し、
交、正、分、し、

一 各、商、事、
伊、瀬、
伊、瀬、

手記也

四月下

一 全田南邊人多遊玩今於此所記
 地多荒蕪四十七處多為
 池田龍一七子領而所記多為
 村

一 河津を記す

一 枚及中嶋浦を記す
 一 地記を考用して辨求し得
 求す之を其意を今括圖と圖
 文に記し置る

四月下

一 伊東路より北を記す
 (書後由) 本郷帳と照合を如右
 一 廣島縣下より北を記す

- 一 本館より貸出の一覽をせしむ
- 一 取付台帳の中一巻終結書と来入台帳接合しし件を掲載せしむ
- 一 書目記載方凡例に取調に着手す
- 一 松山より圖書し注文を為す
- 一 板及細谷要雄未結結書と而後了

書

- 一 圖書目録入に凡例を定む

九〇

- 一 外國雑誌誌を来んて其ららんとすやとせし接外國雑誌と取合しし所共の要否を問ふ
- 一 雑誌の取寄人を来年分に入念に出す
- 一 教文段と信を問ふつある雑誌誌し向
- 一 昭和十二年以内未着しふあるは在りしもの返却を推定七月迄に今文揃

一 送付せしめ七月を以て一切あきらめし
午を切らむ

一 外國雑誌に刊行未了者も容易に提出
する決定せむ。自今より雑誌印に一目瞭
然し志を調定し之を留意せむ

一 自今雑誌印の講評等に併付せる
このまゝ毎月十日毎一の口を以て
新舊と交換せむと、併し不交換
ハ早稲田大学に於て取計せらるる家
自今より雑誌印に事務とせむ

一 雑誌家以外國雑誌掲載者毎月三四
日之を改む

一 師範部文科にも亦二期の文科ありし
後を以て文科書スウエントン英文三冊
四十三部を以て一部四十銭の代價を以
て出版印を考へし印を以て考へし
わらふ法あり自今後を以て文科書に
同一方針を以て考へし印を以て考へし
日方針を以て考へし印を以て考へし
産するべき也

十二

一 四ヶ所の産出量と油を積る二冊、垣原
 守とくし令衆(四)セニサス積先荒干
 冊寄始あらし

一 洋書者雜誌AとDとを比較して
 久々の伝るる圖書に油出来に里に
 考り認めしと推す

一 新編鉄鋼油出来を算出せるに
 乙里から考らるるを以て半年中

一 新刊圖書に元油を算す

一 方々雑誌、新刊ありし 謝世と云
 考り認めしと推す 自今云ふ所の
 事、事一此の雑誌を以て鉄鋼を以て
 煤木のものと認めしと推す也

一 三月中新加和洋書統計表

洋書	購本	四七	八二
寄贈	六	一〇	
購本	一六	四〇	
寄贈	二六	七二	
合計	八二	一二二	

合計	五三	九六
統計	一三五 ^冊	二〇八 ^冊

十三

一三月中閲覧統計左に示す

人員	一〇一三六
一日平均	三三七 ^八 六六
前月比較	増 二一六
圖書	二〇七〇六
一日平均	六九〇 ^冊 二〇〇

十四

一昨年十月より本年十二月までの間にありし十月分の
新加圖書取油査の結果は右

洋書	四六七 ^冊	七九六 ^冊
和洋書	一五二七	四二八一
合計	一九九四	五〇七七

雑誌資料を除く

一 早稲田大学に於ける本行を以てして
一 来、十七日運動会を以てして本行

洋書 七十八八冊

和洋書 三三三三九冊

雜誌 三三八八冊
一五七二冊
六号ヲ以テ一冊ニ数フ

洋書 二二二冊
一七九四冊

一 妻子馬流氏外國ニシテ注文ノ獨又振子

書ニシテ和洋書ニシテ其母數三〇冊 運賃

二十三四也

一 昭々引續キ市ヤ、彼僕を出シ(國書)の勅語

十七日ヨリ廿日ヨリ

一 十方其妻陸上運物ヲモツルニ有例

年今心一過ヲ休致シ換例ニ交

互年廿七ヨリ廿二ヨリ休致シ

事ニ決ス

一 送物等ヨリ物ノ老親等ニ有例

ニ概況ヲ知ラセ

一 十九日彼名松山モ中々急ガレテ

店ニ出立云云ナリテ其後ヲ詳カ

廿〇

一 休館中より午後五時迄の間に物乞の
乞を招集し左に申渡す事

一 之に反り閉館をせしめ来
月可なりとの旨の閉館に事

一 日曜日の終末より閉館に事
来月可なりとの旨の閉館に
旨の閉館に事

一 此し改定次第にて文部省
出勤に事

本指示の事

〇 彼等と接由を更改すること等

一 伊東と和洋書房及び和洋書

一 伊東と和洋書房及び和洋書

一 伊東と和洋書房及び和洋書

一 伊東と和洋書房及び和洋書
一 伊東と和洋書房及び和洋書
一 伊東と和洋書房及び和洋書

ハ之を助成方とす
 一 從來出入監寺批を前由申候の如
 人古勤の来りしとて自今も前由を
 監守寺務とし申候と聞候批
 と思ひし前由申候と聞候批
 宛印多とて代りしとす
 階上の監寺も前由とす
 一 十卷に同書出納帳記とて度々
 自今も前由とす
 一 毎々左しとす

関渡印及し由二人 坪山 七代文

御免人

但し坪山を関渡印及し由二人
 の條をよりしとす

長孫者を翌朝二の町来由以
 内庭初よりしとす

由り延出たりし由り母二銭
 を加く從來八来しとす
 十銭と云
 す

早稲田大学図書印

一 考りぬ者らに上野梅の枝に於て
を故事抄入厨の方心を以て
えたるけし出ふ

ホニ

一 考りぬ者らに上野梅の枝に於て
を故事抄入厨の方心を以て
えたるけし出ふ

を合併しとらんは、
し、ポルトガルを
い、多、又、再、
の、又、的、左、に、
の、又、的、左、に、
の、又、的、左、に、

Annales de l'École libre

Sciences Politiques

代價

一 松山市らしし左し 岡田と構ふ石代全
木九回九十五巻之奉事心為之奉
こゝろきまふつて来年分入今迄辨
を為す約也

下子綱目

朱子語類

南唐書

澆 景

文苑書林

外八行

一 読辰辰科書の日

Parnis New national Revision

No. 4

不四十段冊之字教科之形見教科用

とるまゝに出版印七行生経の日

書後了す但しその代償 未

し

一 号巻と表紙の上段印全冊出地記

標記(字主任)と罷免之法を併し如

以若不可得何一二を主紙上ト一

凡二十年分四十日と購取し又決
了

一 杉山等よりし旅者若干一印購取を
代償凡百十九日也廿二日之頃と掲
げたるらと世々未年分に入を支
拂ひぬ也

井上

一 帝國國と彼らと改定は為るは決
定し二十一日四十五日也みぢ

返至せしむるに有るは、予決決を郵
送す

一 時々引續るは終つては、七消す
一 有るは、古物を、フリエーバ
ック購取断りし件也

一 有るは、アナルスビ
エール、リール代償、出股印
し、五枚を、月末に、終る、戸
つき日、代り、各引、し、有る
也

廿芳

- 一 阿部全舟般の傳を解く傳はる日
石川全章一氏と文海才石月限
罷名し初也
- 一 後任一人(赤井)石月限を解く
乞ふ方し出るは是許
- 一 目錄凡例に記するを貴くす
老田子任氏未終り大改古老藤田
之目録と云波心若干之圖表を換

- 出可、在る大改故及石月限不削り托し
而の購入し完也石月限の傳名者と云ふ
- 一 學問事録あり
- 一 伊東と和澤者考起し任と云ふは
成るに至る三内地流し書し一は不
一 阿部石月限解傳しるし一は石月
月人等と云ふ扱ふるは標下事録に
自ら伊東の撰任と云ふ
- 一 石月限傳記未終

廿六

一 目錄凡例脱朽す但し再版訂正を要

す

一 二と三と脱覧者へ 出せしむるは物部三徳を以て 出入書と事書

典の古籍を脱覧せしむるに於て

出入書と事書を以てしめしむる

に於て是を危険と爲すを以て

之を度止するを決せり

一 脱名抄少巻と事書の四五の圖書を購入す

一 森下松雄と事書の解題の出入書を許す

五月二日

一 松平と事書を以て同様の購入代償を

未定に拂ふの約也

七号少巻三 垂延別史五

八号少巻三 布離子

天保中巻三 松平少巻三

寛政式

宇治文庫ハ

- 一 著者集古成 既稿二部ありて其
- 一部は支拂 不償にありて其
- 稿買入るなり
- 一 抄本を命りしに其命を真に命り
- を既負に供りてんは其命りし出
- 已終り指免に元也
- 一 大炊、浪又之者 既稿の其命りるなり
- 者也
- 一 下等抄本出づるに既稿に才二版

スタンダード大辞典を長く浪又す
 一 著者集古成(木版本)細目録あり
 一 心もわきまを命りるなり

五月三〇

一 著者集古成(木版本)細目録あり
 一 心もわきまを命りるなり
 一 著者集古成(木版本)細目録あり
 一 心もわきまを命りるなり

一 印刷しと母のあつても
あつたの給ありし

五月十九

一 給仕津川某者ららし出勤す
一 来ん十考り改り少考、辞任る、小林賢三
七月給十五のりえ、閲覧部へ傳へし、
併し、考らし出勤し

一 中山嘉吉印也、洋書六部、寄附

ありし

一 洋書も、多し、出版、送、持の、圖書
美術書、一文字、古六、川、り、相了

五月十九 時、

一 前月(四月)の閲覧月表左の如し

○ 閲覧の数 二十五
○ 人員 八・八〇七

一〇 平均 三・五二二八〇

前月比較 一・三二九減

圖書令并

一八六〇日

一日平均

七月十四日

前月比較

二・一・二減

一 奥雜中書局吉原から細見松助宛
をぬり書信言事

一 多々あやま候共一出一候に廿一史代
演五十四の家更らる十四を減し徳
徳より決る

五月十日 年記 書信

一 彦子と東函の細見宛を心

一 傳り必書と孫宛し出版印と親

そふ集代通記言印一に言の宛と

よりをを傳り説し印へ文保取

二元也

一 小林賢三より出勤了

五月十三日 颯風

一 小林賢三の傳り日誌を山崎のやぶと

入上つ冊四十五冊也在之支拂八月
月より子若しうらるる多る三ヶ月

一真淵を集し細見保を心すことを
伊予の公家

一小使に事りしこと一口虫契入手由地院し保
に及す

一小菱新色の糸を伝ふ書解備書
具重三回をす

一金子ぞ抄の骨に回古目保コンニヤリ
出来有るそんく一配布す

一其時佐傳也年録

一唐代書家古細目の油意こる初年す
未詳

五月十考 口作

日 十日 情結

一亦景務花心、廿一文由候予文取
こし保るる書取差出

一小使佐傳(赤に海白)二倍給し

一 海客もなぐ我意先しと文集文集
 一 兼菽を以て先しは又とある菜
 菽を以て先しは又とある菜
 八月ツバのしと之を菽也
 一 其の給中なるもしと兼菽文集
 快乃其十敷く其の給中
 一 國も辨入るる為故も其の給中

五月廿二

一時の給中なるもしと兼菽文集

一 又求むるもしと兼菽文集
 一 其の給中なるもしと兼菽文集

五月廿二

一 其の給中なるもしと兼菽文集

一 其の給中なるもしと兼菽文集
 一 其の給中なるもしと兼菽文集
 一 其の給中なるもしと兼菽文集

付垣細法定す

一 口リス古名々々々法律の代傳に傳へ
付來古々々々

一 口野家國古々々由傳入又也しこふ又
神々々

五月廿六日

一 口内古々々々々々々を傳へし
と流流の素 自ら本領を移し
みん々々々々々々文子々々を移し

古流流名を催す ぬきも家系と云
生の老々々々々々々々々々の流と決し
来月上向身一而を子々々々々々
細う方流を述しお言々々々々
一 口々々々々々々々々々々々々

一 終國を公流交々々々 四

一 書國図録 二

一 雲合奇傳 五

一 水許後傳 十

一四古学傳説

シ

五月廿五

記

五月廿日

坪内逍遙の『西遊記』と『東遊記』と
右の方法に依りて『西遊記』と『東遊記』とを
くき圖書に採りて、資料とす

会名 同収法伝存

回数 毎月一回

与伝 本校に伝存

講演者 一回二名

聴講者 凡五十人

録しに講演者と講題 之を記す

如左

第一回 支那文字 支那の三味

支那の記 支那の探考

第二回 支那の探考 西の筆致

支那の記 支那の探考

才三回 西勢

ヤハラ

東の真月
田中一平

才四回 狩鹿

高橋

豊島屋
幸田夜伴

才五回 女敵討

死と文字

幸半得正
大塚保次

才六回 河車節

大槻如電

ダンヌン
上田 敏

才七回 お梅書

ハウプトマン

佐田之助
北里 康

五月三十一日

一 某侯府から化りあふる信、保侯に届
て、考ふる事四万部を二千ある由
に、漢りやしとの文海本を、東
の学究とて、今とて、取あが

油衣又の着手の上右防の控をさへる
その制に属し防のき一月方而に備し
たる者乃其を必要を力すと決し
其終に其法を回復せしむ

〇六月

一日

一 早稲白の被る一節とて体勢を改め
るに圓を紙に描き持紙におかして
山本に在る紙
一 泰西名作集何卒の卒をて
流おのき
一 大改をなすに
た下るに
一 其冊
は
お
ま
る
か
と
し
ま
る

早稲田大學圖書館

結果左しぬし (出版部報告)

スイントン英之子 (才一) 三十五冊

の (才二) 十冊

ナレヨナル 四十五冊

地夏上と千八百也 各三冊

ぬこゆも一刻と出版アキキ

ゆせ

スイントンの才一冊綴リを云

小

一リース本恭西名画集二行の取油に着

手し内一行の教正理生

六月三日

一戸の寛人モと法紀を教八十一冊寄

焼あり

一時今秋間、関路を境多入多きと

四五十八にせとすもあつと今と云

火の雷状なるを不定とせり

位を更々左右に五個之迄加するに

決つ

一 地圖志要とまゝの十餘部一 海山と雲漢とを合す

一 細林のやうに江戸のちまひ三四月の間に
~~~~~  
リ波を~~~~~とあはれおひ引継ぎの  
終り法本を考ふる

一 来々上るもの交るもの如く福祿を  
亦一冊用ゐるに存るものを考ふる  
を考ふる

一 録業法を我が國の院針を蒐集

一 高料の矢とるもの供とんと終り  
七川の家の中のものを得るもの  
の字の終りを法本とする  
此を考ふる

一 四角編の終り  
者法を輸入後針外法院針  
板を考ふる  
一 大板のあはれと四角を考ふる  
その圓方を考ふる



ナインティーンズ・センテズリーの二巻後刊  
着者カキヨウを以て終ら振巻の書に  
依り其の後に依りてす

二月のり

一 船隻を以て支那航路に注し  
と後を以て其の且つ高料にして  
おまを以て極を以て其の  
認めか其の以て一ありや  
此、其の事

一 来り十方向の海況を聞くの体は其の

也と其の事をおんを以て

一 其の事にして其の事  
余り

二月十日

五月中、新加坡古右に於て

寄附者 一四五部 二二四冊

購束者 一六一部 二四〇冊

計 二〇六部 四六四冊

石水書房也

一帝國大学の火災の鑑みより本館に  
毎本相互に（鑑み入り）を主目とする  
三定志

一館より入る文書入之れをみる  
一相互料 鑑み入り十式十使する  
一市高料 十式を以てする

一寐言として代りて特上とす  
軒使高洋園日二個購入する

一枚反り中負米飯あり  
一回ぬれ流るる間合し色紙物をコニヤ

ク校と附し一回ぬれ校する  
一以りて流流るる才一四開合し  
流もくあるゆえとす

|      |      |      |
|------|------|------|
| 横甲の老 | 田原の葉 | 江口の氏 |
| 右端の老 | 塩津の葉 | 高坂の葉 |
| 菊池の老 | 永井の老 | 五丁の老 |
| 水口麻布 | 徳田洗司 | 山崎忠大 |
| 中井の老 | 之印俊作 | 之印日吉 |
| 田中隆平 | 老田の老 | 本町の老 |



二月十一日

一 十井新三郎の日記  
一 紙巻日記の類  
一 寺務引続  
一 寺務

一 古坂の日記  
一 送り状

主 九十八冊

七百六十一冊

別 九冊

二百七十八冊

目録

二十一冊

一 三井新三郎の日記

一 寺務日記  
一 寺務日記

一 加藤新三郎の日記

一 後継

一 日記

一 寺務日記

一 寺務日記  
一 寺務日記

二月十一日

一 寺務日記

應接官より控へて一週同敷語訳令を  
 つまむ館長に申し候し後方と違へ千  
 多し後方氏之支那史のりも又子  
 之資料を與へりしもの、さる事、  
 名も支那史の解説、支那史の記  
 原、其譯文和訳の數々、漢義支那史  
 の七説、その一、漢語を以て、  
 三味(譯文)を以て、  
 即ち後和訳、力を以て、  
 き、その一、  
 三味(譯文)を以て、  
 即ち後和訳、力を以て、  
 き、その一、

考すも、此の沿革、  
 而も、  
 或し、  
 事、  
 亦、  
 ハ史料、  
 大隈、  
 徳田、  
 一、  
 次、

講演ありて西田華波博士木匠  
二氏と終言しありて文海  
事

物成海濱ありてありし車代を脱  
事と才一田とあり

六月十三日

- 一 来八十首帝園大寺構内御殿に於て  
文庫地名聞ありし故あり
- 一 三井呉服店と一時奴六の月分上り

脱し来り町初傳し故事也とあり  
言り脱り也

- 一 徳寺為り来りて京御料とあり  
五田前傳し傳し出づ

海に上りて五田とありて  
廿五田とありて  
廿五田とありて  
廿五田とありて  
廿五田とありて  
廿五田とありて  
廿五田とありて  
廿五田とありて  
廿五田とありて  
廿五田とありて  
廿五田とありて

一 海内とありて海内とありて



一 戸を突入して盗取財物を隠匿し、其の罪を  
隠すため著書あり、其の罪を隠す

十考

- 一 新地を売却するの件、其の旨を述べ、其の旨を述べ
- 一 寺の寺主が、其の旨を述べ、其の旨を述べ、其の旨を述べ
- 一 國を改め、其の旨を述べ、其の旨を述べ、其の旨を述べ
- 一 彼中、高き高き、其の旨を述べ、其の旨を述べ、其の旨を述べ

一 而して、其の旨を述べ、其の旨を述べ、其の旨を述べ

一 石川半平、其の旨を述べ、其の旨を述べ、其の旨を述べ

一 不撻下、其の旨を述べ、其の旨を述べ、其の旨を述べ

十一考

一 大地、其の旨を述べ、其の旨を述べ、其の旨を述べ

一 高村、其の旨を述べ、其の旨を述べ、其の旨を述べ

一 其の旨を述べ、其の旨を述べ、其の旨を述べ

一 其の旨を述べ、其の旨を述べ、其の旨を述べ

一 各地方自治統計書

一 各地方自治勸業年報

地方自治之統計

各回稅関彙報

大日本海物販賣之概

日米海物販賣之概

大日本海物販賣之概

日米海物販賣之概

海物販賣之概

海物販賣之概

一 樽屋用紙の四種と各二千枚  
従来より比するに成るも同じく  
佐あしく改のなるをあること

早大 稻田 學

門 號 冊

早大 稻田 學

著者 出版 門 號 冊

早稲田大學圖書館

商科の欠乏を感ずるに及ぶ所を要する西  
洋流説の國石のこころを以ての長短の  
論一考を要す

1. The Accountant Journal.
2. The Accountant.
3. Board of Trade Journal -  
London Weekly
4. British Trade Review.
5. Journal of the Institute of  
Bankers.
6. Fair Play 1888 誌
7. Railway Gazette (America)
8. Railway News. (England)

一 毒瓶又のり山本利花雅事録  
一 ちんぽん抄、来々支那抄の自今も録  
一 寄終りくさき方四行を為す

一 青紙馬頭氏棟等千休跋十法釋法氏  
調書十七、氏又圖書院後し体氏  
照るありし

十七

一 唐高祖有由唐高祖海内平定  
史主伝よりしに陳列法を聴き其の

其の妻ありしに列位を親く

一 日好海流多才一田草記を各抄録、  
交代す

一 此の生る下傍院合社よりし事終開式  
此録別書氏一武田原を也を記し其の  
記あり

一 文部省よりし大寺調書必資料 一  
此と其の書ありしに開する印副表干  
寄終りありし

一 戸名変更ありしに田録表ありし







一 日好子活紙局し件あり、そのうちを中  
扱名に請ふ

二十一日

一 有茂保漢分紙と主款紙別或は亦  
を多しし事あり

一 商料券券の用分紙と主款紙別或は亦  
寺式券と微するを左し法あり、此  
分紙と主款紙と一々紙批し合  
す、東京電氣紙局分紙 日本精製電糧分紙

神戸川崎造船不

油丸船渠分紙 東京株式船渠  
王子製紙分紙 市士水色紙分紙  
鐘淵紡績分紙 東京毛糸分紙  
市士紡績分紙 日新麦酒分紙  
東京瓦砂分紙 三井物産分紙  
日新紙屋分紙 三井礦山分紙  
一 玉山芝毛紙集三 玉山芝毛紙(表) 村二  
海分紙と請入候二四

一 和佛寺油壺と結果古し也し

三十二年十月一日から三十七年六月廿一日迄

總計 二〇九七部 五六〇三冊



しるしと無名を付取流す

一 書名と綴糸を其あるところを直取の糸  
の心とすし、目録を左しるしと決す

一金七千七百五十四圓八十錢五分  
金六千七百二十二圓二十四錢

圖書部員

高田見を費

金五千七百三十九圓五十七錢五分

寄附費

市一紙費

収入之部

一金四千二百四

読取料

一金七千一四

寄附費

一金九百五十四

前年分繰入金  
金九百五十四

廿四

一 綴糸と活字を徳金に合す

一 徳金と活字を合す  
提出す

一日野山とて洋書若干冊あり

一 山林學と不修園を結ぶ初め能く説く

一 芝居説を視て

一 古語省主統からして関統規則書

(歌文) 三行を考略して

一 七のち一氏に因るは海嶺後行の録

一 昔の古歌を扱ふ

廿五

宿直高直親定を改正し李之人と彼  
より一週遊せしむ

廿六

あまふ探訪者からして来月日取  
後令、生れぬを求むる西田甚波  
休し木行好の二氏をて承けし  
色紙のち

廿七

七回中一氏より四巻をのり

多行方外ニ七ありて終刊書也  
勅書ヲ被テ書キテ了ル也

来月孝業式ニ出立ニ上ニ一場ハ  
説セシハ人オ飲喜トシ如海申

大匠ト坊ニヤノ説書キ来比  
ルニヤ

丸長ノ一ノ形有淨寺目録ハ之  
刊耳

佛圖ラ、ロース古名ノ説書  
ノ若氏法十四冊刊也

音圖國書録ニモ音圖方ニ  
音書ニモ音書ノ形有

才二冊の形有  
七録也

一書也  
一書也

抄山本  
伊勢國有録古今録  
形有

形有  
併不ニ決スル  
也

本分





一 大隈侯の家の事を以て傳へたる事  
一 大隈侯の家の事を以て傳へたる事

一 七月一日より彼方お令奉候旨と  
くま

一 七月一日より十者迄のお令の出  
りぬる事出

三十

在米垣原正五郎と外務省を  
末子センサンス外務省を  
丹ちりり利を

一 池田侯一也に托する圓の洞出米  
圓を

一 各為の... 統計書家統之利

七月一日

一 桑子原清貴事... 大隈侯の家  
一 桑子原清貴事... 大隈侯の家

一 林賢とせしと... 旅送記し  
一 林賢とせしと... 旅送記し



九月卯旬迄印刷する迄にお可  
心

洋書とすぬぬのカード突合し  
言

右カ標路の

- 一 曝書系と和洋活字を本番紙  
突合え大油
- 一 昔存の欄し後互を互する
- 一 印刷目録に誤植訂正表を  
心

右不井路の

- 一 カード教の記
- 新合十巻の基き編案を改め  
巻記
- 一 事柄のカード七回考部帳  
と併入せの上
- 一 口八別
- 一 編年  
ナ

右伊東路の

- 一 洋書とすぬぬのカードを  
か表の記に添え
- 一 伊東とせ
- 一 カード教の記を

為す事

右市塚路

一 旅伝教正記

右市塚路

一 市教正記

完全し手保とある事

右市塚路

市教正記酒日とある事

旅伝教正記

市教正記

~~~~~

市教正記

市教正記

~~~~~

七月

五 市教正記

十四日

市教正記

十三日

市塚

毒地酒匂し給仕に申致し  
習を命じし七回五十支統し

ヨ

松山村木の二給仕も若干の  
給と増額す

一 未だ十の給に致し文書取互  
をめぐりの給を減し廿時回を  
きり給をせしむるに似し  
手あしし四回五十支統し

市

少波二人を各文書取し  
ハ給しし但し毎月七十支  
ツこの年あやと異なり

一 今春給あつし三十七支  
あつし  
一 三十八支給あつし改に出果  
並し取給と託を  
枚給給果に大なる不足を  
増し給と給あつし二十支

田を減せたと得た... 中一也

一 三十七年分の報告と徴収

報告係数

二二、二二九部 五二、〇九の冊

由去年分増収

三八二四部 九六七二冊

但し... 報告係数を一冊とし...

調査統計 前年分の比較のため

三十七年分 比較

開帳回数 一八四。 二五一増 六七〇

開帳人員 五二、八三一 一二二、〇八五 増七〇、二五四

の一日平均 二八、〇六九 四八、六三九 増二〇、四七〇

貸付回数 一三六、五七二冊 二三七、〇六五冊 増一〇、四九三冊

の一日平均 六九三、二四 九四四、四八 増二五一、二四

七月十方より十方のこと

十二百... 棚... 十... 十... 十...



時論卷之九

時論卷之九



以下全て  
白紙

